



夏の大会に向けて～部活動・クラブチームの決意表明 Part2

いよいよ、今週末から令和5年度第76回宗像区夏季総合体育大会(中体連大会)が開幕します。先頭を切って競技が開始されるのが、23日(金)の陸上競技大会と24日(土)のサッカー大会です。河東中全校挙げて応援していきましょう。保護者の皆様、地域の皆様、選手たちへの温かい応援よろしくをお願いします。前回に引き続き、代表者の決意表明をお読みください。

【 野球部 銀 慶祐さん 】

こんにちは、野球部主将の銀慶祐です。野球部の中体連の目標は、「九州大会出場」です。そのために、部員一人一人が具体的なイメージを持って練習に取り組んできました。中体連までの残り少ない貴重な練習時間を有効に効率よく使い、課題を少しずつなくしていきます。野球部9年生12名、8年生7名、7年生8名、顧問の古川先生、翁林先生、コーチの水城さん、楠八重さん、総勢31名で「九州大会出場」という目標を絶対に達成してきます。宗像区大会は会場が近いので是非見に来てください。待ってます!



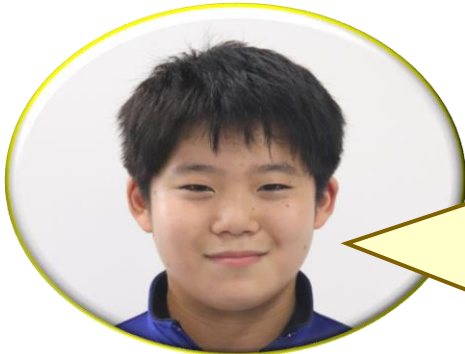
【 女子剣道部 上田 瀬奈さん 】

こんにちは。女子剣道部です。私たちの目標は筑前地区大会出場です。そのために、チーム一丸となって一日一日の稽古を大切に、大きな声を出して頑張りたいです。今よりももっと強くなるために一人一人が意識を高く持って稽古に臨みたいです。そして、先生から言われたことを素直に改善し行動に移すことが大切です。今まで練習してきた成果を充分に発揮し、良い結果が残せるようにしたいです。最後は悔いの残らない試合を全力でやり切り、楽しかったと笑顔で言えるように頑張りたいです。応援よろしくをお願いします。



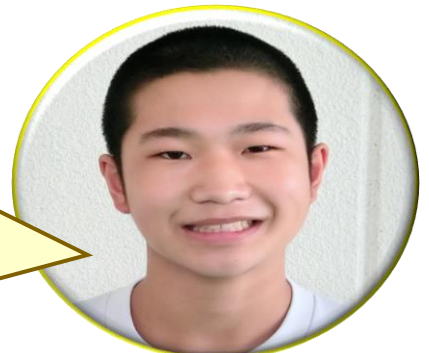
【 男子剣道部 神田 侑典さん 】

こんにちは、男子剣道部主将の神田侑典です。男子剣道部は、7年生1名、8年生6名、9年生3名の計10名で中体連大会に向けて頑張っています。男子剣道部は、団体戦県大会出場を目標にしています。先輩たちも達成できなかった目標を達成するため、部員全員が一つとなり、全力で一本一本に気持ちを込めて引っ張っていきたいと思います。また、顧問の野田先生、鳥井先生、綿田先生、外部コーチの木藤先生、たちからいただいたアドバイスを素直に受け止めて、中体連に向けて成長していきます。最後まで全力で頑張っていくので、応援よろしくをお願いします。



【 柔道部 高口 怜桜さん 】

こんにちは柔道部です。僕達は、男子2名、女子2名と少ないですが、他の学校と合同で練習に取り組んでいます。練習はとてつきついです。受け身、打ち込み、投げ込み、乱取りなどの基本の練習を中心に頑張っています。中体連では、県大会出場を目標に日々努力しています。大会まで残り少ないので、練習で指導されたことを意識して、さらに練習を頑張りたいです。試合は一試合一試合を全力で勝ちにいきますので、皆さん応援よろしくをお願いします。



1秒で答えをつくる力？

～1万人のお笑い芸人を育てた本多正識さんのトレーニング方法～

お笑い芸人の虎の穴がある。

吉本興業のNSC(吉本総合芸能学院)というお笑いを中心としたタレント育成学校です。この学校で、30年余りで1万人に及ぶお笑い芸人を育ててきた中心人物に本多正識(ほんだまさのり)さんがいます。本多さんは、NSCで若手漫才師に授業を行う伝説の講師です。これまで、ナインティナインや中川家、キングコング、かまいたちといった大物芸人を育て上げ、世に送り出してきました。本多さんは、NSCでどのように芸人を育ててきたのかを昨年末一冊の本にまとめました。タイトルが「1秒で答えをつくる力」という本です。芸能界にあって、漫才だけでなくエンターテインメントの世界で生き残るためには1秒で切り返しができる訓練が必要です。生き馬の目を抜くエンタメ界では、司会者に振られたことを一瞬で反応しなければなりません。では、その切り返しのためにどういう訓練をしているのかというのが、この本のテーマです。プロフェッショナルとしてのトレーニングを48の技術として書き下ろされました。



今回、そのエッセンスを河東中生に2つだけ紹介します。河東中の先生方は日ごろから、生徒のみなさんによく「反応、反応!」と言っているの、比較的受け答えがよく反応が速い印象があります。この本で書かれているポイントを知ること、より素早い答えの出し方や頭の回転を早めることを習得できればいいと思います。

【レッスン1 本や雑誌を読んだり、テレビやSNSを見たりするときに、対象をほめまくり、ツッコミを入れる!】

本多さんがまずトレーニングにあげているのが、日常生活の中で、「自然とリアクションできる頭をつくる」という訓練です。例えば、ファッション雑誌を読んでいるとき。普通の人、パラパラとページをめくりながら「いいなあ、自分も欲しいなあ」といった単純な反応しかしていません。そこを本多さんが主張しNSCの生徒が実践しているのが、雑誌を読みながら、とにかく一つでも多くほめまくることです。「このモデル素敵やな」「見出しのつけ方がおもしろいな」「活字のレイアウトがきれいやな」などとやたらほめまくる言葉を心の中で発し続けるトレーニングです。また、逆にツッコミの能力も磨きます。「これは、色のセンスないな」「この服は上下のバランスが取れてないんじゃない?」など。漫才に必要なツッコミの力はこうして養われているそうです。

河東中のみなさんも、本を読む際に、無感覚に文字を追うのではなく、様々な感情を持って読み進めるようにしてはどうでしょうか。作者をほめたり、ツッコんだりするといいでしょう。授業でも、ぼーっと先生の話聞くのではなく、「先生よく知ってるなあ」とか「どんだけ調べて授業してくれてるんやろ」とか思いながら聞くと学力も伸びますよ。(ツッコミはほどほどに)

【レッスン20 結論から逆算して話す(短く論理的に自分の意図を伝える)】

本多さんがNSCで教えている話し方のポイントの一つ拾いましょう。「話し方は頭の回転の速さに直結します。なぜなら、どんなに頭の回転が速くても思ったことを上手く伝えることができなければ意味がないからです。話すのがあまり上手ではない人の共通点は、何を一番言いたいかわからない、もしくは分かりにくいことだと感じます。どんなことも話すときに重要なことは、何を一番に伝えたいのかです。要するに言いたいことがあるから、話をするわけなので、その結論から話を進めるのが得策です。」

この本の最後に本多さんがまとめた“NSCの20の心得”というのがあります。芸人として育つには日頃からこんなことを心掛けているのか、なるほどと思います。しかし、この心得は中学生や社会人にも必要だと思うので、最初の4つのみ紹介します。

1. あいさつを忘れない。「はっきり」「しっかり」言うこと。気持ちは運動部。
2. 人がしゃべっているときにさえぎらない。じゃまする権利はない。
3. 他人のことは気にしない。最低限の礼儀・マナーを守ってわがままに。
4. 毎日が本番(オーディション)のつもりで。緊張感をもって授業を受ける。